

平成29年8月7日

平成29年度第5回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

議 決 事 項

件 名	提 案 理 由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第1号 平成29年度地域 が育む「かごしま の教育」県民週間 表彰（ポスター原 画・標語）の被表 彰者（校）の決定 について</p>	<p>平成29年度の地域が育む 「かごしまの教育」県民週間 表彰（ポスター原画・標語） の被表彰者（校）を決定しよ うとするものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

議案第1号，その他の（1），その他の（6）及びその他の（8）については，非公開で審議する旨，教育長から発議があり，全会一致で議決された。

3 平成29年度第4回教育委員会定例会の会議録の承認

承 認

4 その他

(2) 平成30年度鹿児島県教育委員会職員（埋蔵文化財専門職）採用試験（第1次試験）の実施状況について

（総務福利課長）平成30年度鹿児島県教育委員会職員（埋蔵文化財専門職）採用試験（第1次試験）の受験者等の状況，試験の内容及び今後の日程等について説明

（島津委員） 採用予定数の2人は，増員なのか，それとも補充なのか。いろいろなところで発掘調査等が行われているようであるが，いかがか。

（総務福利課長）人数については，発掘調査等の状況や業務量を想定して採用する。

専門職の方で教員からの交流で人事を配置しているところもある。正確な言い方をすると，教員からの振り替えとの解消という形になるかと思う。

（教育長） 専門員としては増員ということによいか。

（総務福利課長）振り替えで減っているため，そのような意味での増員となる。

(3) 公立学校施設の耐震改修状況調査結果について

（学校施設課長）公立学校施設の耐震改修状況調査における本県の状況及び今後の対応について説明

（島津委員） 屋内運動場等における吊り天井や照明器具，バスケットゴール全ての落下防止対策の実施率が70.8%だが，予算を取れないことが原因なのか。

（学校施設課長）これまで自治体の方では，建物構造体の耐震化を最優先して実施してきたので，耐震化に比べて，落下防止対策は遅れている状

況である。

(島津委員) 書棚など部屋の中にある倒れやすいものへの対策はいかがか。

(学校施設課長) 市町村の小中学校における転倒防止対策については、調査をしていないため、数値を持ち合わせていない。県立学校では、書棚等の転倒防止対策は既に実施している。

(島津委員) 県立学校では、実施率が100%ということか。

(学校施設課長) そのとおりである。

(島津委員) 小学校など子供が小さければ小さいほど危険であるので、何らかの形で調査した方がよいと思う。

(学校施設課長) 具体的に調査はしていないが、小学校の転倒防止対策については既に実施されているものだと理解している。大事な対策であるので、機会を得て指導したい。

(教育長) その点については、市町村教育委員会を通じて指導していただければと思う。

(今村委員) 屋内運動場等における吊り天井や照明器具等の実施率について、去年は約20%改善して約67%になったが、今年は2、3%しか上がっていない。あまり上がらなかった理由は何か。

(学校施設課長) 必要な財源の確保が理由ではないかと思われる。

(今村委員) 屋内プールを考えたとき、建物の耐震化とは違って、財政的には難しいかと思う。実施しなければならない対策であるが、事実上、これ以上の耐震化が困難だという理由で、70%程度で実施率が伸び悩んだのかと思った。

(学校施設課長) 落下防止対策については、吊り天井を撤去したり、揺れによって照明器具が落下しないように補強をしたりしている。バスケットゴールは、天井から吊しているものは撤去したり、壁際に設置してあるバスケットゴールは、落下しないよう補強している。建物全体を大幅に改善する必要性はない対策である。未実施の市町村に対しては、必要な財源を確保してできるだけ早急に対策していただくよう要請したい。

(大富委員) 耐震化率がだんだん100%に近づいているが、なかなか100%にならない理由は、近い将来、統廃合になるから手を打たないと理

解している。100%に近づいているということは、統廃合になって使わなくなった校舎も出てきているからということでよいか。

(学校施設課長) 統廃合先である学校の校舎の建て替えを予定していたり、財政事情などの理由により、遅れている状況である。

(大富委員) 使わなくなった校舎に関しては、耐震化を図る必要がないから何もしないのか。

(学校施設課長) 耐震性のない建物で今後使わない建物については、解体撤去することになる。

(4) 平成30年度鹿児島県公立学校教員等採用選考試験（一次試験）の実施状況について

(教職員課長) 平成30年度鹿児島県公立学校教員等採用選考試験（一次試験）の出願者数等の状況、試験の内容及び今後の日程等について説明

(島津委員) これまで10倍を超えていた倍率が今回10倍を切っているのは、人手不足の影響があるのではないかと思う。今の段階で慌てる必要はないと思うが、他県では倍率が3倍のところもあり、そのようなところと比べると倍率が高い状況であるので、その中からしっかり選考していただきたい。今後、認識しておく必要があると思う。

(教職員課長) 現段階での受験倍率は8.6倍であるが、昨年よりも採用予定者数を増やしていることも、倍率が低くなっている理由の一つである。例年、他県と比べると、高い倍率で推移していると考えているが、御指摘のあったとおり、優秀な人材の確保については、今後も検討してまいりたい。

(石丸委員) 受験者数が少し減っているが、新卒の受験者の状況はどうか。

(教職員課人事管理監) 出願の段階で、非常勤や臨時的任用経験がある方の割合は55.1%であり、新卒等で受験した方は44.9%である。

(石丸委員) その比率は経時的には変わらないか。

(教職員課人事管理監) 傾向としては、毎年このような割合である。

(5) 平成30年度県立高等学校・県立特別支援学校使用教科書の採択結果について

(高校教育課指導監) 平成30年度県立高等学校・県立特別支援学校教科書の採択事務の流れ及び採択した教科書一覧等について説明

(7) かがしま国体「チームかがしま」プロジェクトについて

(競技力向上対策室長) かがしま国体「チームかがしま」プロジェクトの目的，対象者，認定基準，認定期間及び「チームかがしま」ジュニアアスリート認定証授与式等について説明

(島津委員) 「チームかがしま」ジュニアアスリート認定は，非常に良い制度だと思うが，認定はしても，強化選手として特別な扱いをして強化を図るようなことまではしないのか。

(競技力向上対策室長) 既に競技団体を通して，ジュニアアスリートの育成のために，指導者の派遣等の支援は行っている。しかし，ジュニアアスリートに認定された選手が競技場を使うときに，使用料が免除されるような準備はしていない。

(島津委員) 特別なコーチを呼んで指導を受けられるようにしていないのか。

(競技力向上対策室長) そのことについては，これからも力を入れたい。

(島津委員) 認定を受けた子供たちが特別扱いされるわけではないのか。

(競技力向上対策室長) 特別扱いされるわけではない。

(島津委員) 認定をして1年間ということだが，この1年間という意味が理解しづらいのだが。

(競技力向上対策室長) 国体の前年度までこの事業を行うが，競技団体でもその選手がその競技を辞めたり，新たに素晴らしい選手が出てきたりするため，1年間としている。これだけの人数であるので，来年度は同じ選手たちが上がってくる場合もあるし，新たな選手たちが出てくる可能性もある。

(島津委員) 毎年認定される子供もいるのか。

(競技力向上対策室長) その場合，更新されることになる。

(島津委員) できれば予算をつけて強化選手を支援できれば更に良いと思う。

(教育長) 具体的な強化策について説明していただきたい。

(競技力向上対策室長) 今回は，県外に進学した場合や途中で辞めた場合，又は，競技団体によっては，まだ選手を十分確保できていないところもあるので，その辺りの意識を再認識させるという意味で，認定証の授

与を行う。これからもかごしま国体で活躍する世代については、強化に重点を置き、県外から優秀な指導者を招いたり、強化練習をしたりして、支援を更に手厚く行いたいと考えている。

5 議案

議案第1号 平成29年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）の決定について

（非公開）

6 その他

(1) 教育委員会の事務の点検・評価について

（非公開）

(6) 平成30年3月県内公立及び国立中学校卒業予定者の進路希望状況について

（非公開）

(8) 地域文化功労者表彰候補者の推薦について

（非公開）

7 閉会